

巻頭言 『今よりも、更にもっと』 P.1

特集1

「誌上座談会 短答式試験の攻略法」 —2023年12月短答はこう攻略する—

短答式試験
全般の攻略法

P.3~5

財務会計論の
攻略法

P.5~9

管理会計論の
攻略法

P.9~11

監査論の
攻略法

P.11~12

企業法の
攻略法

P.12~15

特集2

12月短答 直前・直後の過ごし方

試験当日までの追い込み時期の学習スタンス

P.17~20

試験当日の過ごし方と心構え

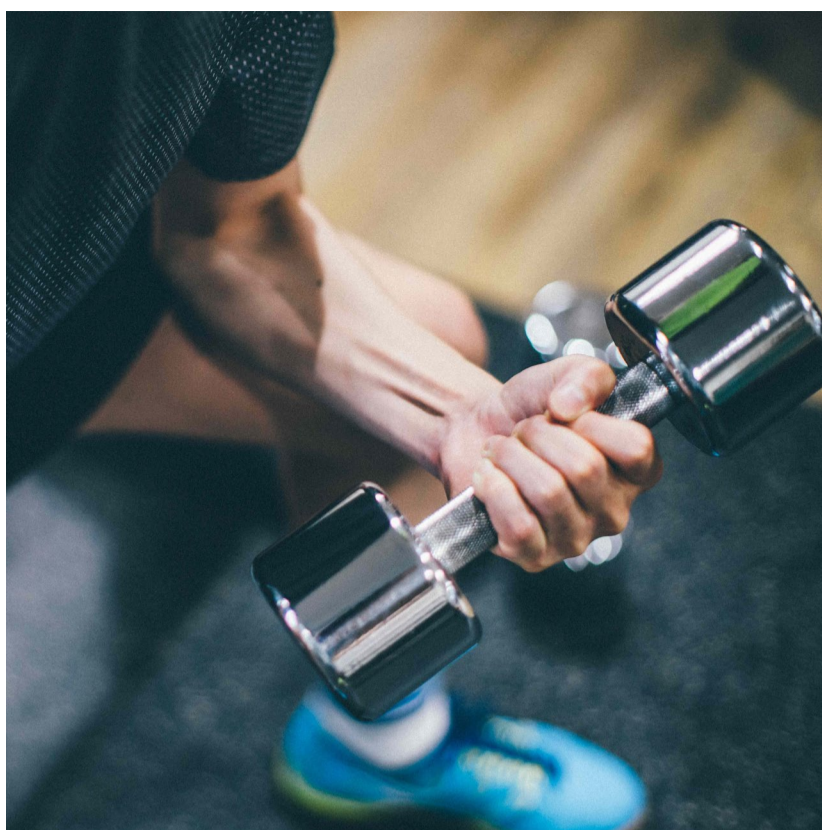
P.20~21

試験後のアクション

P.21~22

就職・転職のことなら、多くの法人との信頼関係を築いてきた

『大原キャリアスタッフ』へ



『今よりも、更にもっと』

どれだけ勉強しても同じ作業負荷を繰り返すだけでは一定のレベルにまでしか到達できない。慣れたやり方だと楽ではあるが、その後は現状維持。たとえ辛くとも自分の学力に合わせて変えていくことで次のレベルへと進めるのである。

筋トレを始めたばかりの頃は、20kgの負荷でも効果があるだろう。しかし、筋力が増し、20kgの負荷に余裕を感じるようになってきたら、そのままトレーニングを続けていても効果はない。負荷を25kgに変えるべきだ。自分のレベルに合わせて負荷を上げないと筋肉量が増えないことは、今の時代、筋トレをしない人でも知っている。

これと同じことが勉強にも言える。勉強を始めたばかりの頃には効果があったトレーニングも、学力が上がるにつれて、成果が上がらない無駄な作業に成り下がっていく。

その代表例が、テキストを読んで理解する作業だろう。テキストの内容がまだ理解できていない学習初期において、テキストを読んで理解する作業は最も重要だ。しかし、理解が終わり、細部を覚える段階になったら、同じ作業を続けていても効果はない。負荷を20kgから25kgに変えるように、テキストの読み方を、内容を理解するだけの普通の読み方から、暗記を意識した読み方に変える必要がある。

25kgの負荷は20kgの負荷よりも重い。しかし、重いのは大変だからと言って20kgのままでは、いつまで経っても筋肉量は増えない。勉強も同じである。暗記を意識した読み方は普通の読み方よりも面倒だ。しかし、面倒だからと言って今までの楽な読み方を続けていては、いつまでも覚えられず、成績は上がらない。

居心地の良さに負けて、同じトレーニングをずっと続けてはいないだろうか。そこに学力の維持はあっても、学力の向上はない。楽で効果があるトレーニングは存在しないのだ。

特集1

「誌上座談会 短答式試験の攻略法」 —2023年12月短答はこう攻略する—



会議集合写真

左から

監査論担当

栗田 篤

司会

永瀬 幹根

財務会計論担当

瀧本 祐和

管理会計論担当

水野 悦之

企業法担当

鴻巣 一樹

永瀬 12月の短答式試験がいよいよ近づいてまいりました。短答直対演習の開講も目前に迫り、受講生の皆さんも否応なく短答対策への意識が高まってきていることでしょう。

しかしながら、焦りばかりが心を占めてしまい、具体的にどのような対策を取っていけばよいのか分からないという方も多くいらっしゃると思います。今回は4名の講師にお集まりいただき、これから試験までの過ごし方についてお話を伺います。

[目次へ](#) 



短答式試験全般の攻略法

永瀬 まずは全体的な観点からのお話を伺います。短答対策として留意すべき点と近年の短答式試験の傾向について、いかがでしょうか。

瀧本 公認会計士試験の学習では「バランス感覚」が求められます。「いかに得意科目を作るのか」ではなく「いかに苦手科目を作らないようにするか」という意識を持ち、日々の学習計画の策定にあたっては「バランス」を大切にしてください。特に「計算科目と理論科目」「インプットとアウトプット」のバランスが試験対策として重要になってきます。

「計算科目と理論科目のバランス」は、どの科目も過不足なく知識を定着させることを最優先させてください。今、計算力が身につけていたとしても、毎日の計算練習を怠れば計算力はすぐに落ちてしまいます。学習計画策定の際には時期的にも、計算科目と理論科目のバランスを意識してください。

目次へ 

「インプットとアウトプットのバランス」も大切です。単に知識を理解したとしても試験問題が解けなければ意味がありません。アウトプットの時間もしっかり確保できているかを確認することを意識してください。

水野 例えば、管理会計論については、昨今の試験では時間内にすべて解答することが難しい回が続いています。今後についても、このような出題がなされる可能性が十分に考えられます。時間的制約が厳しいということは、着手すべき問題かどうかを見極める力と、その問題をタイムロスすることなく一発で正答する力が必要となります。その力を養うためにも演習で真剣勝負のアウトプットトレーニングを重ねることが重要となってきます。演習を受けずして、合格はありません。必ず自分の決めた時間、場所で受け続け、提出し続けることが必要です。その上で、毎回の演習結果に一喜一憂しないように気を付けてください。すべてを完璧にすることは理想ではありますが、実施時に50点だった問題を60点に、60点取れるようになった問題を70点にと、一步一步すすめ、少しずつ強くなることを目標に、演習を受け続けていってください。

永瀬 近年、例えば管理会計論の難しさが際立っているとは思いますが、実際のところ短答式試験自体の難度は上がっているのでしょうか。

栗田 現行制度において年2回の短答式試験が実施さ

れており、2回の短答式試験を合わせて考えれば、合格率は低くありません。しっかりと学習を継続していただき、各科目に適切に時間を割り振り、演習や各種教材を徹底的にマスターするという努力を行っていたければ、合格できる試験です。

鴻巣 手薄になりがちな細かい知識を問う選択肢が増えてきており、最近では企業法で高得点を取るのが難しくなっています。もっとも、基本的な知識もこれまでどおり出題されていて、そのような知識を問う選択肢の正誤を確実に判断できれば、7割を点数することは十分に可能です。このような状況を踏まえたと、徒に細かい知識を追いかけるのではなく、まずは「基本的な知識を正確に記憶すること」、具体的には肢別チェックに掲載されている全ての肢を解けるようにすることが重要となってきます。

永瀬 本試験で時間が不足するかどうかや、問題の難度が高いかどうかは気になりますが、これからやるべきことや大切なことは何も変わらないですよ。となれば、具体的な短答対策としてどのような学習をすることが求められますか？各科目の短答対策を伺います。まずは財務会計論からお願いします。

財務会計論の攻略法

瀧本 財務会計論は満点が200点と他の科目の倍です。計算問題での解答の正確性が理論問題の解答時間に影響しますので、財務会計論の計算の仕上がり具合が合否に直結します。

[目次へ](#) 



財務会計論の対策としては、まず計算を仕上げることに。短答直対演習の問題を前にすると、計算を苦手にする方ほど計算から逃げ、理論で点を取りに行こうとしてしまいがちです。それでは結果的に、計算を苦手としたまま試験当日を迎えてしまうことになり、合格が遠のいてしまいます。先程もお話ししたように、苦手科目を作らないようにすることが必要ですから、習熟に時間がかかる計算の学習を先行させなくてはなりません。

理論の学習は、計算の知識を活かしながら進めることが効率的な方法といえるでしょう。会計処理を身に付けてしまえば、会計基準の規定をその身に付けた会計処理とリンクさせて押さえることができます。このように、まずは計算の習熟度を高め、計算が習熟してきたら、理論に掛ける時間の割合を徐々に増やしていけばよいでしょう。

本試験では、多くの受験生にとって時間内にすべて

を解くことが困難な分量の問題が出題されることもありますから、自身の得点を最大限に引き上げるためにはどのように解答するのが望ましいのかを、短答直対演習を通じてマスターしていくことが求められます。たとえ演習であっても貪欲に点を取りに行くという意識で臨んでください。

永瀬 演習でも本番のつもりでということですね。では、具体的に計算はどのように学習したらよいですか。

瀧本 計算科目は自身で解答数値を導き出す必要があり、計算力がそのまま得点に結びつきます。計算力を養うためには、問題集や演習を解き、わからなかったところや曖昧な会計処理を発見したら、必ずテキストに戻って確認することが大切です。短答式試験ではテキストレベルの基本的な問題が数多く出題されており、このような問題は落とすことができません。できなかった会計処理についてはテキストに戻ってしっかりとインプットを行い、問題集や演習で迅速に正答を導き出せるようにしてください。

財務会計論の計算では、伝統的な論点から最新の会計基準まで網羅的に出題されます。そのため、合格するためには苦手分野を作らないことが必要です。ステップ演習、短答直対演習では短答式試験を突破するためにマスターしていただきたい論点を網羅的に出題しています。演習で出題された論点を確実に押さえていくようにしてください。

永瀬 では、理論はどのように学習したらよいですか。

瀧本 近年の短答式試験において、財務会計論の理論問題は、大半が会計基準からの出題ですから、その規定を押さえることが学習の中心になります。テキストでは、合格レベルに達するために押さえなければならない規定を網羅していますが、ボリュームが多いため短期間で得点力を引き上げるのが難しいです。そこで、テキストを要約したポケットコンパスをメインに学習を進めてください。ポケットコンパスを読んで全体像が掴めない場合は必ずテキストに戻りましょう。

肢別チェックの問題を解き、解説を読む際には各問題のポイントとなる引っ掛け所を確認してください。それを意識しながらポケットコンパスやテキストを読み込むことで理解が促進されます。短答実力養成演習では、自身の知識に穴がないかを確認しましょう。また、巻末に収録されている確認問題は、短時間で多くの項目を確認できるように作成してあります。短答実力養成演習を解き直す際には、巻末の確認問題も併せて解くようにしましょう。このように、ポケットコンパスやテキストの読み込みを学習の中心に据えて、短答実力養成演習を効果的に活用することで実力を養成してください。

特に演習期ないし直前期には、肢別チェックと演習をひたすら繰り返し解くという勉強方法になりがちです。しかし、試験では肢別チェックや演習の問題がそのまま出題されるわけではないので、この勉強方法はあまり意味を成さないと思います。結局のところテキ

目次へ 

ストの内容を理解し、それに基づき問題の各肢の正誤を判断できるかが勝負を分けるのです。

永瀬 管理会計論はいかがでしょう。

管理会計論の攻略法

水野 まず、管理会計論は問題を見極める力が必要となります。解答することの難易度×解答にかける時間で考えた際に、理想形は簡単で時間のかからない問題にいかに多く触れていかに多く得点していくかです。ただし、すべての問題がそうではないのでその取捨選択が必要になります。一見難解そうな問題でも実は解答に時間がかからない問題や、一見平易に見えるが実は解答に時間がかかる、もしくは解こうとすると手が動かない難しい問題も想定されますね。そこで、解答が容易な問題がどれか、手を付けるべきではない問題はどれかを見極める力を演習や自習を通じて養っていく必要があります。もちろん、見極める力を養っても実際に解けなければ意味がありません。そこで計算問題、理論問題についてそれぞれの学習についてお話をさせていただきます。

計算問題については、『正確性』と『スピード』を養う必要があります。まずは「正確性＝正しい解答を導き出す力」を養ってください。そして、次に「スピード＝目標の時間内に正答を導き出す力」を養いましょう。このスピードですが、ある問題について実際に時間を測って解き、その問題の目標解答時間は何分かを確認します。両者にギャップが生じている場合にはそ

目次へ 



のギャップを埋めるために、間髪入れずに繰り返し解き直してください。極論を言えば、問題を覚えてしまっても構いません。とにかく目標時間内に解けた感覚を体感することです。そこで養われた感覚によって初見の問題に対する解答スピードも上げることができます。

理論問題については、前回5月の本試験において、「原価計算基準」を含めた伝統的な原価計算の範囲からの問題が4問出題されております。特に「原価計算基準」に関しては、しっかりと基準を読み込みましょう。その際、計算とリンクできる部分に関しては普段解いている計算問題の解法と同じやり方が文章として表現されているかを確認しながら読み進めましょう。計算とリンクできない部分は、それ程多くは無いです。また、管理会計の範囲に関しては、まずテキストをしっかりと読んでいただき、肢別チェックや短答直対演習で理解度を確認してください。理解度の確認に

については、具体的には×肢について×の理由を答えられるかどうかで確認してください。理解度が足りないと感じられた場合には今一度テキストに戻り、正確な知識を確認していきましょう。

永瀬 管理会計論は、負けない点数をたたき出すことが重要な科目です。基礎力をつけ、いかに点数を確保するか、の観点からの学習が求められますよね。続いて監査論について伺います。監査論の学習ツールとして中心となるものはどのようなもののでしょうか。

監査論の攻略法

栗田 監査論の学習ツールの中心は、テキスト、肢別チェック、そして演習です。数年以上前の本試験では、十分に学習している方でも7割正解するのが困難なほど難しいということもありましたが、最近では、Aランクの知識を正確におさえれば、7割以上正解できる出題が続いています。しかし、このことは、Aランクの知識があいまいな方は、正確におさえられている方に差をつけられやすいということを意味します。よって、まずはAランクの知識を正確におさえるための学習をする必要があります。

そのためには、テキストで重要な知識をインプットし、肢別チェックのAランクの問題で知識の確認をするということを繰り返し行う必要があります。さらに、短答用の演習である実力養成演習、直対演習のうち、解説にテキストページが記載されているものを確認するようにしてください。

目次へ 



これらがある程度できるようになったときは、肢別チェックのBランクの問題、演習で出題されているもののうち解説にテキストページが記載されていないものを確認し、本試験が難しくなった場合にも戦えるように準備していただけるとなおいいでしょう。

そして、計画的に学習をすすめられておらず、Aランクの問題を短時間で確認したいという方は、短答実力養成演習を重点的に確認していただければよいと思います。当然、テキストや肢別チェックに比べ網羅性という点では劣りますが、より重要なものを短答実力養成演習では出題していますので、それが確認できていれば、ある程度本試験でも戦えると思います。

永瀬 最後に、企業法はどうでしょうか。

企業法の攻略法

鴻巣 短答式試験を受けるにあたり、最も良くないこ



とは「迷い」です。「基本的な知識」に関する肢は、何の迷いもなく正誤を判断できるようにしなければなりません。

そのためにはテキストを漠然と眺めたり、テキストを隅から隅まで読んだりするのではなく、「太字箇所」を「正確に覚える」ようにしましょう。そして、ここで大切なことは「覚えようと意識すること」です。もちろん、その後に忘れてしまうことはやむを得ませんが、一度「正確に覚えた」という状態を作ると、忘れたとしてもスムーズに思い出すことができるようになります。なお、覚える際は、図表を活用したり、趣旨を合わせて理解したりすると忘れにくくなります。また、声に出して読んだり、紙に書いたり、五感を活用するとよいでしょう。

問題演習については、先ほど述べたように、肢別チェックに掲載されている全ての肢について、確実に正解を出せるようにしてください。そして、間違えた

肢はもちろんのこと、正解できたものの自信のなかった肢についても、テキストに戻って該当箇所を理解・記憶するようにしましょう。また、その際は、該当箇所だけではなく、周辺知識についても併せて確認することで復習の効果が大きくなります。また、短答直対演習、短答公開模試についても、出題可能性の高い問題を集めていますので、必ず解けるようにしておいてください。なお、短答実力養成演習については、「肢別チェックの確認」という要素が強いので、肢別チェックの学習が十分にできているのであれば、間違えた選択肢の復習だけでよいでしょう。

短答式試験の本番にあたっては、「全ての肢について正誤を判断できる必要はない」ということを強く意識してください。正誤について少しでも不安のある肢については一旦保留として、確実に正誤が判断できる肢から○肢、×肢を確定させてください。特に確実に誤っている肢を見つけるようにするとよいでしょう。このようにすることで、未知の知識を問う選択肢が含まれる問題であっても、案外あっさりと答えが出る場合があります。そのためにも繰り返しになりますが、「基本的な知識を正確に記憶すること」が重要となってくるのです。

最後に判例に関する肢及び改正に関する肢の対策についてお話しします。判例については、大原の教材に載っている判例の結論を覚えておけば十分です。確かに、近年は細かい判例が出題されることもあります。しかし、その肢がわからなくても他の肢で正解を出せたり、常識に照らせば正解を出せたりする場合があります。

目次へ 

のです。改正に関する問題は、近年、必ず出題されていますが、大原の演習において出題可能性の高い改正論点を多く出題していますので、それらの復習プラス周辺知識の確認をすれば、改正論点については十分にカバーできます。

永瀬 ありがとうございます。そして本試験直前になると気持ちで負けないことも非常に重要なファクターになりますよね。最後に、我々から受講生の皆さんにエールを送りたいと思います。

各担当者からのメッセージ

瀧本 「合格したい」ではなく、「合格する」という気持ちで試験に臨んでください。合格を勝ち取るためには強い気持ちが必要です。強い気持ちを持って合格を引き寄せましょう。

水野 目標地点に向けて歩みを止めずに突き進む。これに尽きます。最後の最後まで歩みを止めずに努力を継続していきましょう！

栗田 正確な知識があれば、自信をもって正誤の判断をすることができます。まずは、Aランクから正確におさえていきましょう！

鴻巣 日々の勉強の際、不安になる気持ちはわかりますが、自分が立てた計画を一日一日淡々とこなしてください。そうすれば、「昨日の自分」より「今日の自

目次へ 

分」は確実に成長しているはずですが。それと、試験に合格するためには、細心の注意を払うことと同時に「適度な楽観主義」が必要です。やることをやったら、「きっと大丈夫！後のことは、結果が出たら考えよう」。この気持ちで試験に臨んでください。きっとよい結果がでるはずですが！

永瀬 気持ちだけでは空回りしますし、しっかり考えて計画を立てても実行できなければ意味がありません。合格するためには、正しい学習姿勢と正しい学習手法で勉強することが大切です。さあ、12月短答突破に向けて、我々と一緒に戦って参りましょう！

[目次へ](#) 

特集2

12月短答 直前・直後の過ごし方

10月からはいよいよ短答式試験対策の演習がスタートし、12月短答直前期を迎えます。

本号では、12月短答に必勝を誓う皆さんに短答式試験直前とその直後の過ごし方についてアドバイスをお届けします。

高橋
尚彦



1. 試験当日までの追い込み時期の学習スタンス

●直前2週間の学習時間の割り振り

短答式試験直前2週間は、苦手科目に比重を置きながら、バランスの良い学習を行ってください。得意科目を伸ばすというよりは、苦手科目、苦手論点をなるべく無くすことを意識しながら学習をしていくことが重要です。直前2週間で得意科目を集中的に学習して

目次へ 

も、本試験で取れる問題が1問～2問増える程度でしょう。他方、苦手科目は伸びしろが大きいので、苦手科目に比重を置いた学習をすることによって、全体としての得点を大きく伸ばすことができます。特にAランク論点をしっかりと確認しましょう。なお、短答式試験も相対試験の要素が強いので、すべてを完璧にする必要はありません。ここまでわかっている、という度合をきちんと把握していきましょう。自習時間を効果的かつ効率的に使用して、総合点を伸ばす学習を心がけてください。

●直前1週間のタイムスケジュール

次の表は直前1週間の1日のスケジュール例です。

■直前1週間の1日のスケジュール例

0	6	7	8	13	14	18	19	21	24
睡眠	起床・準備	移動	自習	休憩・食事	自習	休憩・食事	自習	帰宅・準備	

試験と同じタイムスケジュールを意識しましょう。実際の短答式試験は、企業法が9時30分～10時30分、管理会計論が11時30分～12時30分、監査論が14時～15時、財務会計論が16時～18時という時間帯で実施されます。試験1週間前であっても、普段の生活と同じように規則正しく起床し、規則正しく睡眠をとり、粛々と学習するほかありません。よく直前になって、勉強すべきことが多すぎて、焦って何も手につかないという話を耳にすることがありますが、時間は誰でも平等

目次へ 

に過ぎてゆくものです。与えられた時間を最大限に使うことが、直前期は重要になります。短答式試験の出題範囲は広いので、浅くとも広く目を通すようにしましょう。テキストの目次を活用し、論点の漏れがないかを確認してください。

●前日の過ごし方

前日に必ずすべきことは、試験当日の準備です。不足物を調達できるよう、午前中のうちに準備を済ませましょう。まず、持ち物の確認をしましょう。受験票・写真票（インターネット出願の場合）・筆記用具（必ず複数用意）・電卓（同じものではなくとも、予備電卓も持っていくことをおすすめします）は当然のことながら、時計も忘れないように。普段、スマートフォンを時計代わりに使用している方は要注意です。飲料水（ペットボトル700ml以下）の準備は前日に済ませておくのが望ましいです。そしてハンカチ（無地のものをもっていきましょう）やポケットティッシュ等を何かのときのために用意しておきましょう。また、財布には万一の事態に備えてタクシー代も含めて多めに（小銭も！）準備をしておくとうれしいです。試験当日に着る服装も前日のうちに決めておきましょう。受験会場の温度は会場の広さや暖房の設定温度、暖房の位置等により差がでてきます。寒暖どちらにも対応できるように着脱しやすい服装を用意しておくとうれしいです。

試験前日に行う勉強は、とにかく基本の確認です。前日に難しい問題にチャレンジし、間違えてしまうと

不安な気持ちを引きずってしまいます。計算であれば「正解できる自信がある問題」をいくつかピックアップし、全問正解して良い気持ちで問題演習を終えましょう。理論であれば、テキストの確認が良いでしょう。

試験前日となると、緊張感が高まり、なかなか寝付けなくなりがちです。実力を出し切るためには、いつも通りを心がけることも重要です。いつも通りの就寝を心がけましょう。寝付けない場合には、無理に寝ようとするのではなく、布団に入り目を瞑っているだけでもかまいません。緊張はそれまで頑張ってきたことの証でもあります。「緊張しているのは自分だけではなく、全受験生が緊張している」と思ってください。

2. 試験当日の過ごし方と心構え

また、試験当日だからといって、起きてからいつもと違うことをする必要はありません。いつもと違うことと言えば、万が一に備えて少し早めに家を出ることぐらいです。その他はいつも通りで構いません。短答直対演習の日の過ごし方と同じで構いません。当日だからといって、特別なことをする必要はまったくありません。

試験会場には1時間前に入室できますので、着いたら、まずは筆記用具等の準備をしましょう。机がガタガタする場合等、試験監督に相談すべきことが生じたら、早めにお問い合わせをしておきましょう。我慢は厳禁です。

試験中は演習時と同じように解いてください。本試

験だからといって、いつも以上に慎重になりすぎる必要はありません。普段の演習時は、解けない問題は後回しにして、確実に解ける問題から先に解いているはずです。また、難しい肢に惑わされることなく、確実に判断できる肢を軸にして、答えを出していると思います。本試験でもそうしてください。『いつもと同じリズム』で解くことが大事です。1つの科目が終わったら、100%気持ちを切り替えてください。終わった科目の出来が気になるのはわかりますが、気にしたところでどうすることもできません。意味が無いどころか、次の科目にも悪影響を及ぼしてしまいますから、むしろマイナスです。

最後になりますが、ご自身の解答は、必ず問題用紙に記載（選択肢にマルをつけたりするなど）してください。これは日頃の演習でも行っていると思いますが、例年本試験でこの所作を忘れてしまい、自己採点をする事ができず、いち早くその後の計画を立てることができない、という方がいらっしゃると思います。本試験後にいち早く次に向けて動き出すためには、本試験で自分がどういう解答をしたのかをきちんと残し、自己採点をする事が必要不可欠ですので、忘れないようにしましょう。

3. 試験後のアクション

●解答調査やプランニング・セミナーへの参加

試験は5時間にもわたるため、非常に身体が疲れます。それでもあと少し、今後を見据えた行動を取らなければなりません。

目次へ 

まず、試験当日に、大原ホームページの解答調査リアルタイム集計に参加しましょう。各問の正答率も判明するため、「得点すべき問題で得点できたかどうか」「解かないで後回しにすべき問題に時間を費やしていないか」の判断が可能となります。

その上で、各校にて実施されるプランニング・セミナーへ是非ご参加ください。大原から“今後の学習方針”を提示しますので、迷うことなく次の一歩を進めることが可能となります。

また、どうしても、公認会計士・監査審査会が公表する「総点数の70%を基準として」が気になるころではありますが、過去には60%が基準となったことも、73%が基準となったこともあります。したがって、実際のボーダーラインは公表されるまでわかりませんが、いずれにしても皆さんの最終目標が8月の論文式試験であることに変わりはありません。早期に学習を再開することが必要ですから、そのためにも前述のプランニング・セミナーに参加するようにしましょう。

12月短答が終わった後、勉強を再開するまでに時間が空いてしまうと、必ず後悔することになります。その後悔をしないために、本試験においては解答記録を残し、解答調査とプランニング・セミナーへ参加する、これらをしっかりと実行していきましょう。